

パリ国立聾学校を訪れて

筑波大学附属聴覚特別支援学校
原島恒夫、横山知弘、玉生美智子
西俣稔子、加納彩子

1. はじめに

本校の姉妹校であるパリ国立聾学校を1月10日から15日まで訪問し、先進的な教育内容などについて研修を行うとともに、今後の生徒相互の交流に向けての視察を行いました。短期間でしたが、日本との文化や教育の違いに驚かされる場面も多く、有意義な研修を行うことができました。この訪問で見聞きしてきたことを以下報告します。

2. パリ国立聾学校

(INJS: Institut National de Junes Sourds)

パリ国立聾学校は、1971年創立の世界最初の聾学校で、日本でいうと文京区を指すパリ市のほぼ中央にある5区に位置し、周りには多くの大学があり、古くから学生街として知られている場所にあります。

パリ国立聾学校では、パリ国立聾学校内の専門教育による教育、パリ国立聾学校専門家チームの支援を受けて行われる提携校での教育と、2つの教育が行われています。



(1) 職業科

パリ国立聾学校内には8つの職業科が設置されています。専門的な授業の他、社会、数学や手話のクラスなどがあります。私たちは、手話のクラス、数学のクラス、中学生の美術のクラスを見学しました。パリ国立聾学校では、基本的に、各先生の教室で授業を行うので、生徒は先生の部屋を巡る形になります。

各学科共通していますが、1年生から年間で6週間以上の職場実習（スタージュ）を行っています。スタージュでは、仕事を身に着けること、人間関係構築を学ぶことを主に目的として行っているとのこと。

・園芸師（2年課程、CAP取得）

この学科では、基本を学んだ後、2つのコース（花と野菜の生産・庭師（エクステリア））に分かれます。

中庭には温室とビニールハウスがありましたが、この温室は、寄付で3年前に作られ、最新の温室システムで、コンピュータが温度

湿度や土の pH も自動制御しているとのことでした。温室では、主として苗を育てていて、年に数回の学校公開日に行われるバザーでは生徒が自ら売るそうですが、非常に人気があり、すぐ売れてしまうと聞きました。



・裁縫師（2年課程、CAP 取得）

最初に入った部屋では、生徒は立体裁断による型紙作りの授業をしていました。生徒達は毎年、教員が決めたテーマでデザイン、被服製作を行います。ちなみに今年のテーマは「50 年代のスーパースター」です。1 年生の生徒も、同じようにテーマに沿って学習活動を行います。基本技術の学習を（デッサン、裁断、立体裁断）をよりしっかりと学びます。

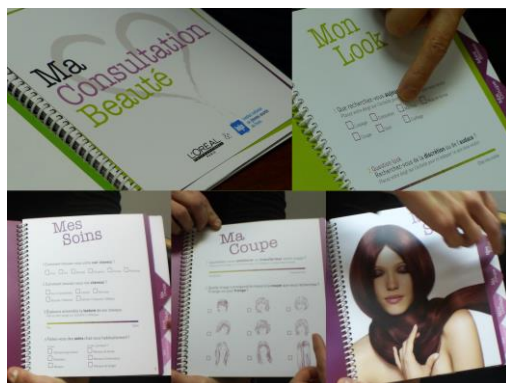
次に今まで作成した被服の作品がたくさんかかっている部屋を見学しました。パリ国立聾学校の Web サイトではド・レペ神父 300 年祭でファッションショーが行われている様子が紹介されています。



・美容師（2年課程、CAP 取得）

この学科は 10 年前に新設され、2 年間で基本的な内容について学びます。この学科の専任の先生は、パリ国立聾学校の卒業生でした。

美容は接客業でもあるので、どの様に接客するのか質問をしました。先生によるとお客様とのコミュニケーションには質問形式の冊子を利用しているとのこと。この冊子は、この学校で制作したもので印刷、配布にあたってはロレアルからの寄付を受けています。最近では iPad などの普及により、それを利用して、各自がそれぞれのメソッドを作るようになってきているとのこと。



・錠前師・金属加工工（2年課程、CAP 取得）

見学をした時、生徒たちは加工の実習をして行っていました。パリの建物の多くにはある鉄製ベランダの手すりやドア、門扉の装飾などの修理や加工の勉強を行っています。



・衛生設備師（配管工）（2年課程、CAP 取得）

パリにおいては 1700 年代からの建物もあるので、水道管についてのインフラ整備が建築時にできていない建物がほとんどです。また水道管は設置されていても、建物の図面が残っていないため、水道管のインフラ整備について、とりわけ配管ができる人材のニーズも高いとのことでした。

最初の一年間は金属配管の溶接が主な学習内容で、金属製の水道管は振動吸収しないので、しばしば穴が開いてしまい、それを埋めるために溶接の技術を学びます。



・建築工（2年課程、CAP 取得）

大きな機械が多数置いてありました。バザーの際会計を行う小屋や校長室の家具など生徒が制作したものでした。



・グラフィック・デザイン（3年課程、職業バカロレア取得）

私達が見学した時に学習をしていたのは 1 年生で、ちょうど Photoshop における縮小と拡大の方法（解像度とピクセル数など）について講義を行っているところでした。この教室だけは、机の配置が馬蹄形でなかったことが私たちには印象的でした。

フランスでは、印刷の技術をとっても大切に伝統的な技術ととらえ、オフセット印刷の機械や大型プリンタなど、印刷の機械が揃っていました。そればかりではなく昔ながらの活字を並べて印刷する活版印刷の装置も少し残してありました。また、学校が刊行するものはすべてこの部屋で印刷されています。



・歯科技工士（3年課程、職業バカロレア取得）

女子生徒二人が先生と実習をしていました。実習室は先生毎に 2 つに分かれていて、その二部屋の間に石膏室、重合・鋳造室が配

置されていました。実習室の作業机は技工専用のものでした。また、備品がとても充実しており、最新の歯科用 CAD/CAM システムが導入されていました。このことは「導入段階においては最高級のものを使用させる」というパリ国立聾学校の学校方針を裏付けるものでした。



(2) 学校施設

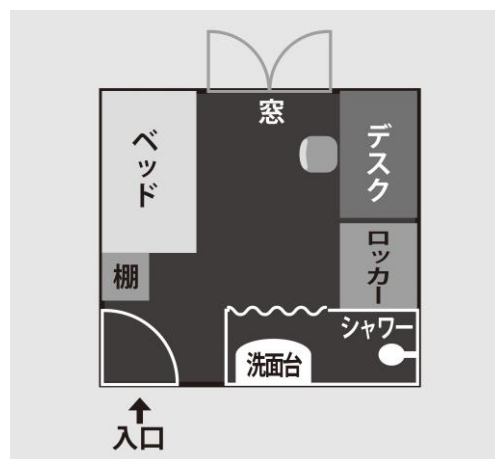
・寄宿舎

寄宿舎は 90 名の舎生が在籍し、建物は 4 フロアで、中学生と高校生は別棟で生活しています。高校生のフロアの舎生数は 15 名で、男女とも同じフロアで生活しています。このフロアの入り口には TV やコンロなどが設置されている部屋があり、舎生はここで朝食を食べています。この他に、職員室、サッカーゲームやパソコンが利用できる部屋もありました。高校生の舎室は、一人部屋で、各部屋には、机、鍵付きのクローゼット、ベッド、シャワー、火災報知器が完備されています。また、2 種類のフラッシュランプが寄宿舎内すべての部屋に設置されていて、一つは、緑色でインターホンの役割を果たし、もう一つは赤色で非常事態を知らせるものでした。

基本的に、舎生は毎週金曜日放課後に帰省、日曜日に戻ってくることになっています。日課も、点呼は行っておらず、高校生の門限は

21 時半でした。

寄宿舎指導員はエドューケーターと呼ばれ、1 チーム 3 人で一つのフロアを担当し、5 人ずつ舎生を受け持っています。エドューケーターの役割は、生活習慣を確立させることです。エドューケーターの勤務体制は 3 交代制で、宿直を伴う勤務は行っていないでした。宿直業務は、ナイトキーパーとして教育学部に通っている学生が 22 時から 8 時まで、男子学生 2 名、女子学生 2 名が、毎晩 2 人ずつのローテーションを組んで行っています。



・体育館

体育館には、フリークライミング用の壁がありました。この施設はパリで最も高さを確保できるクライミングの施設で非常に人気があり、この日も他校の学生がクライミングにやって来ていました。



・音楽室

床パネルにバイブレータが取り付けられてあり、すべての音をパネル上の振動に換えることができる仕組みになっていました。



・カフェテリア

メインディッシュは3種類以上、デザート、サイドディッシュは、8種類以上ものの中から選んで取ることが出来るようになっています。

・図書室

本校小学部や中学部との交流の掲示物や、トロフィーも多数置いてありました。



・医務室、静養室

週に3回、医師と言語聴覚士が勤務しています。また、看護師もしくは看護学生が昼間は2名、夜間は1名勤務しています。奥には、静養室があり、ベッド2台、シャワー、洗面台が完備されています。



3. ロダン中等教育学校

1月14日（月）は、パリ国立聾学校から歩いて20分程度の場所にあるロダン中等教育学校を訪問しました。約500人の中学生と約800人の高校生のうち、30～40人の聴覚障害生徒が在籍し、パリ国立聾学校の支援を受けながら

通常学級と聴覚障害学級を教科ごとに、また個に応じて振り分け、学習を進めています。自宅が遠方の生徒はパリ国立聾学校の寄宿舎から通学していると聞き驚きました。また、統合教育を進めながらも聴覚障害生徒の集団を形成していることにも興味をひかれました。

フランスは、中学校が4年間（日本の小学6年から中学3年にあたる）、普通高校は3年間（日本と同様）で、大学に進学するにはバカロレア（高校卒業資格試験、合格率75～80%程度）に合格する必要がある、日本のような大学個別の入学試験は実施されないとのこと。

高校1年生5人と2年生4人の聴覚障害学級の見学において、生徒と交流する機会がありました。生徒達はコーディングと手話を併用しながら、声を出して話していました。

将来の希望を尋ねたところ、未定と答えたのは1人だけで、医療関係やエステティシャン、エンジニア、寄宿舎指導員など具体的な返答があり、職業意識の高さを感じました。



また、現在エステティックの学校に通う先輩を招いての授業も見学しました。学校では手話通訳の支援を受け、またクラスメイトの協力も得ながら努力を重ね、現在はクラストップの成績をとっているとのこと、エステサロンでの職場実習もうまくいき、大変なことも多いが仕事は楽しいと誇らしげに話して

いたことが印象に残りました。



その後、2年生と交流しました。ホワイトボードに英語で書かれた「学校では男女一緒に勉強していますか、寄宿舎はどうですか」「教科はいくつですか」「人気のあるスポーツは」といった質問をきっかけに話が始まり、たいへん楽しいひとときとなりました。本校生徒との交流もこのような形で進められるのではないかという実感を得ました。



4. ビュフォン小学校

ロダン中等教育学校の後にビュフォン小学校を訪れました。校舎に入ると階段や廊下などの壁面には児童の作品が数多く展示されています。

まず、3・4年の聴覚障害学級を訪問しました。読み書きの学習はこちらで行います。また、音楽の授業をパリ国立聾学校の音楽室で行なうこともあると聞きました。聴覚障害教室の隣は通常学級の部屋になっており、廊下に出なくても教室内のドアで行き来が出来

るようになっていました。



3年生の通常学級は児童31人、うち聴覚障害児3人(人工内耳2人・補聴器1人)という構成で、先生はFMマイクを使用していました。算数の授業中で、先生が出した問題に、小さなホワイトボードにそれぞれ回答を書いて答えていました。フランスは移民の多い国で、学級には様々な人種の子供がいました。

この学級ではコーディングを毎週1回、朝に1時間全員で学習していて、テキストを全員が持っていました。コーディング授業ではレベルに差が出ないように少しずつ学習を進めており、10回ほどのレッスンで使えるようになるとのことでした。先生の「コーディングやってみせて」との問いかけに、多くの児童がやって見せてくれました。



さらに2年生の通常学級を見学し、最後に1・2年生の聴覚障害学級に行きました。

この教室にも学習のための様々な掲示物がありました。これらの掲示物を教育成果が上がりやすいように管理して

いるのはエデュケーターです。観察記録から当番の表、行事の記録、言葉・発音に関するもの等々、カラフルで見やすく工夫された掲示物が教室中に並んでいます。



廊下には耳の解剖図が掲示されており、聞こえの仕組みを児童が見て理解出来るように説明されていました。さらにパリ国立聾学校のオープンハウスへの参加や聴覚障害の児童達と1週間程度一緒に旅行へ出かけるなどの交流も行っていると聞きました。

5. 最後に

この訪問を通して、フランスの聾教育の一部を垣間見られたことで、今後の生徒交流の計画にあたって多くの材料を得ることができました。

参考文献

聴覚障害誌 2012年12月号 特集3 パリ国立聾学校

関連 URL

パリ国立聾学校 HP

<http://www.injs-paris.fr/>

筑波大学附属聴覚特別支援学校 HP パリ聾学校視察団について

<http://www.deaf-tsukuba.ac.jp/france/index2013.htm>